

聽 雪

第 28 号

新庄古文書の会

『聴雪』 第28号 目次

写真 令和六年度 新庄古文書の会総会開講式

令和五年度 学習会風景

◇ 凡例・編集について

◇ 巻頭言 会誌二十八号によせて……………伊藤 勉

一 学習会 第1部 戌之萬御用諸願書御廻状留帳（抜粹） | 平岡村松沢家文書 |

○ 講師 新國吉朗

○ 解説 菅根正一・武田晴美・大津純一・梁瀬平吉・大友寿美代……………4

○ 解説……………新國 吉朗……………27

○ 入力 解説文・解説文 || 新國吉朗

二 学習会 第2部 輪読（『新庄古文書研究会（初級）解説報告書』原文引用 外）

○ 「高橋又五郎家文書」 1 大堰之儀二付諸願書留帳……………武田 晴美……………45

2 水揚一件二付口上書留帳

3 古来大堰言傳書上げ

4 乍恐口上書ヲ以奉申上（理不尽打擲候）

○「布川家文書」	1 無題〔出火之節早速馳付候〕	梁瀬 平吉	50
	2 売端書（両替六貫四百八拾文）		
○「佐藤やまさ文書」	1 質屋諸用覚	大津 純一	54
	2 差出申一札事（今神上役屋支配）		
○「長沢豊家文書」	1 覚（質證文）	梁瀬 平吉	70
	2 無題〔質金利息〕		
○「金田家文書」	1 御朱印写	梁瀬 平吉	73
	2 知行八十石宛行		
○「大場家文書」	無題〔就任挨拶状への返書〕	梁瀬 平吉	76
○「樋渡家文書」	本田開発田畑田畑土書（寛保三年・本合海）	沓澤 正昭	77
○入力 解読文・解説文	各担当者		

三 随想

(一)「ふるさと古学野外研修」	—日本遺産・政宗が育んだ「伊達」な文化に浸る—	大津 純一	80
(二)三〇〇余年の時を過ぎて繋がる「縁（えにし）」		大津 純一	86
四 退任役員の足跡抄（令和六年三月末現在）		大津 純一	90
五 新庄古文書の会「会務報告」		大津 純一	92
(一)令和五年度 事業報告			
(二)令和五年度 収支決算書			

編集後記

近年「新庄古文書の会」に入会される方が減少しつつある。働き方改革の一端であろうか。退職しても仕事を続ける方が多くなった事に気付く。ゆっくりと歴史の第一次資料である古文書に向き合うことが、難しい社会になっっているのだろうか。

しかし、解読のおもしろさに静かに浸っている会員は少なくない。まさに『聴雪』である。

前半講座はここ数年庄屋文書である『御用留帳』を題材として、郷村村民の立場、新庄藩政の在り方、農民支配の状況を幅広く学ぶことが出来る内容である。ことに講師は単元ごとの詳細な説明書を準備しての解読。実にわかりのいい説明になっている。

後半講座は発表形式で四人が担当している。今年度は堰に関わる事、出火に関わる事、両替に関わる売端書、土書、御朱印、領知状、質屋、問屋関係、それに版籍奉還に関わる最後の藩主戸沢正実の書簡など多方面にわたる文書に取り組んだ。

特にこれらの中から町人町新庄の様子を伺わせる質屋、問屋関係文書が面白く、故大友義助氏執筆の『羽州新庄城および同城下町の研究』を手にする機会が多かった。

今後は発表者が年々増えることを期待しながら、町人町の商取引文書や他藩町衆との取引文書など、そこから見えてくる藩政制度なども、出来れば継続して解読し編集したいものである。

(梁瀬平吉)

『聴雪』第28号

発行日 令和六年六月十六日

編集・発行者 新庄古文書の会

〒996-0051 山形県新庄市松本一四
TEL 0233-2217011

印刷所 株式会社 新庄印刷

〒996-0051 山形県新庄市松本一四

TEL 0233-2217011